

令和8年度事業計画

事業報告のほうでも触れましたが、現在、日本の医療情勢は、持続的な物価高騰と人件費上昇等により、医療機関の経営が極めて厳しい状況にあります。先日、日臨技からも指針が出ました。現在の医療を取り巻く環境においては、「高齢化」、「急性期の維持」、「医療資源が少ない地域」などの課題があげられております。

このような社会環境、医療情勢の中で、日臨技は10年先、20年先を見据えた職場環境を維持させる目的で、知識・技術の研鑽に努め、国民に対し、“より質の高い医療”を提供させることを望んでおります。今年度の日臨技の重点課題は、①精度管理事業の持続可能な体制整備に向けた検討、②品質保証施設認証制度の再構築、③「品質保証された検査データベース」構築に向けた卒業後教育の充実、④IFBLS2026の開催、⑤多職種連携医療（診療支援）の担い手として信頼できる臨床検査技師の育成、⑥他職種と連携して互いの業務を補完できる医療人としてのスキルアップを目指した自己キャリアプランの支援に主眼を置いた生涯教育研修制度の再構築、⑦業務改善（タスクシフト/シェア・病棟配置）を推進するため、病院検査室幹部に業務改善力・企画提案力を向上するための事業を展開、⑧災害時における実効性のある体制整備、⑨次世代を担う臨床検査技師の輩出につなげる“人材育成プロジェクト”の展開。以上があげられております。

今年度は、2年に1度の診療報酬改正の年でもあり、その中で、検査室や臨床検査技師に関連する事項が、これまで以上に評価されている。特に、病棟業務の関わり方やタスクシフト/シェアの観点からは、前述した⑤、⑥、⑦が大きく関与してきます。これは、この2年間で非常に重要で、検査室として、臨床検査技師としてどう動いていくかを問われているように感じます。沖縄県臨床検査技師会も日臨技の指針に沿って展開していきたいと思っております。

今年度の日臨技の重点課題として、昨年度まであげられておりました「タスクシフト/シェアに関する厚生労働大臣指定講習会」は、昨年度の第11回を持って沖縄県内での開催は終了いたしました。今後は、中央もしくは、日臨技九州支部で開催され、後者の九州支部においては九州北部地区と九州南部地区の2ヶ所で開催予定となっております。この資格は、臨床検査技師免許へ添付する意味合いの重要で、且つ、今後の臨床検査技師業務のあり方に不可欠な資格となっておりますので、未受講の方は早めに受講されますようお願い申し上げます。

第4回目となる「地域リーダー育成研修会」は、時期・開催場所に関しては、調整中ですが、継続して開催を予定しております。今回も日臨技から講師を招いて、グループワークも組み込んだ内容となっておりますので、非常に勉強になるかと思っております。多数のご参加をお待ちしております。

臨地実習に関してですが、昨年度の実習生より、臨地実習受け入れ施設においては1名以上の臨地実習指導者の配置が義務付けられました。沖縄県では受け入れている全施設満たしているかと思っておりますが、複数の指導者が存在することが好ましいと思っております。実習する学生も、そして実習生を受け入れる側も実習内容のレベルアップが求められ、質の高い臨床検査技師の育成が社会的地位の向上にも繋がることから、是非多くの施設の皆さまの協力をお願い致します。

新人研修会につきましても開催予定ですが、やはり若手の交流の場として非常に重要な立ち位置を占めており、今年度も宿泊なしの終日開催を実施したいと思っております。

公益活動としては、令和8年8月16日（日）に沖縄コンベンションセンターで、なごみ会主催「県民健康フェア」を開催いたします。今年度から県民健康フェアの名称が変更され、企画も大きく変わる予定で、学生をターゲットにした各団体の職種をPRする方向に展開されます。是非、ご家族で足を運んでいただければ幸いです。11月には恒例の全国「検査と健康展」を開催予定しております。これは日臨技からの委託事業にあたり、沖臨技の理事や学術委員を中心に活動しております。内容的にも少し見直す時期にきており、例えば臨床検査技師業務のみに直結した内容など、今年度から展開を見直していきたいと考えております。

学術活動に関しては、まず、2026年度沖縄県医学検査学会（第61回）が令和8年7月26日（日）に琉球大学医学部西普天間キャンパス教育等で開催されます。学会テーマは「新体制が導く臨床検査の羅針盤」となっており、企画は、特別講演に今年度から日臨技の新会長を務める長沢光章先生をお招きし、所信表明の講演を予定しております。部門企画は輸血検査部門、臨床生理部門が担当いたします。多数のご参加をお待ちしております。

次に、日臨技助成金申請研修会についてですが、昨年度は12研修会の活用に終わりました。今年度は、一昨年度と同じく最大20研修会を目標に、会員の皆さまへ還元できるような内容を学術部各分野目指して参ります。加えて、令和8年度（第42回）沖縄県医師会臨床検査精度管理調査も例年どおり9月頃に実施いたします。

日臨技は、昨年度47都道府県における行政との災害対策協定の締結を推進しておりますが、当会も今年度には行政と締結を結び、いざ災害が起こった時にスムーズに動ける体制を構築していきたいと考えております。

連盟については、現在臨床検査技師の国会議員が不在の状況が続いております。法改正つまり臨床検査技師の地位向上には政治的力が必須であります。政治へ無関心な若手技師が多い中、技師連盟においても同様に連盟加入者も激減しており、日臨技自力で国会議員を擁立することが困難な状況に陥っております。それを打破するためには、若者に連盟の必要性や政治とのかかわりの重要さを認識していただく必要があり、是非加入していただきたいと思っております。

沖臨技の事業の一つに、4年前から開始した「ひまわり奨学金事業」がありますが、令和5年に1名、令和6年に2名、昨年度は1名の奨学生が誕生しました。今後も県内の各高等学校へは案内をかけ、将来沖臨技を背負って立つような優秀な人材獲得に注力していきたいと思っております。該当する学生がおりましたら、是非ご紹介下さいますようお願い申し上げます。

最後になりますが、事業報告のほうでも少しお話しておりますが、会計の面で、一昨年度に技師会PCの総入れ替えや事務員の雇用補償などの見直しなど、大きな支出がありました。それに対して、昨年度は若干意識した取り組みを実施いたしましたが、今年度はより意識した取り組みを行って参ります。その一環の一つとして、第4号議案において会費の改正について提起しており、諸事情をご賢察のうえ、何卒ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。今年度も、沖縄県民から信頼されるよう社会的な認知度向上に向けて、広報活動にも注力していく所存です。会員並びに賛助会員の皆様方のさらなるご協力を宜しくお願いいたします。

一般社団法人 沖縄県臨床検査技師会
会長 山城 篤